



Title	北海道大学医学部アイヌ人骨収蔵経緯に関する調査報告書（追録）
Citation	1-165 (2018). 北海道大学医学部アイヌ人骨収蔵経緯に関する調査報告書（追録）. 北海道大学
Issue Date	2018-03-20
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/82909
Rights	本報告書の著作権は北海道大学にあります
Type	report
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	hokkaidoU_report_addendum_201803_Part4.pdf (Part4)



[Instructions for use](#)

屍体蒐集

ア伊居住地ノ保導員(方面委員)ニ屍体発見ヲ報告シ、斡旋ヲ依頼シ置キ、死亡者アル毎ニ直ニ現地ニ出張シ、勸誘説得スルニ骨格場合ト同様ナルカ、其経費ヲ増加ハ當然ナル。祭祀料ニ関シテハ、管下結局不調ニ終リ、且モ自死部類ニテハ、死因ヲ要求セリ、以テ往驗アリ。此ノ場合ニ決シテ個人的要求ガハナリ、全部落民ノ相談ノ結果ガアルカラ、且日本本人相年、場合ト餘程親睦ニシ、且モ注意ヲ加ヘテ、昭和六年九月ニ行ニルニ骨格蒐集旅行ノ概要

経費後口額 684円

④ 伊長旅費

組ニ乳敷控(周田) 510円
助手 2名
期 29日
行先 日高浦河町地方

祭祀料 500 174円

合計 684円

浦河町ヲ中心トシ、ルニ伊部落、様似、東隈洞、向別、岸田、获伏、北茶、野深等ヲ調査シ、合部ニ体完全骨格ヲ得

タリ其間、荷運搬、人夫賃等、諸経費ハ、約ニ放費

- 手為ヨリ個人ノ支出トシテ
- (二) 研究ノ経費 有異
- (三) 業績出版 有異

拝啓
 今永井委員長ヨリ本年度豫算配付左記、
 通、決定、旨申來、候付此致御通知申上候
 尤も現金配付ハ七月中旬ト申來、候、其六月事
 業開始、班差支候付至急配付方重テ申遣、
 置、由候

六月二十七日

山崎 昭 ()
 内村 幸 ()
 古屋 隆 ()
 有馬 隆 ()
 今井 隆 ()
 永井 隆 ()
 開上 隆 ()

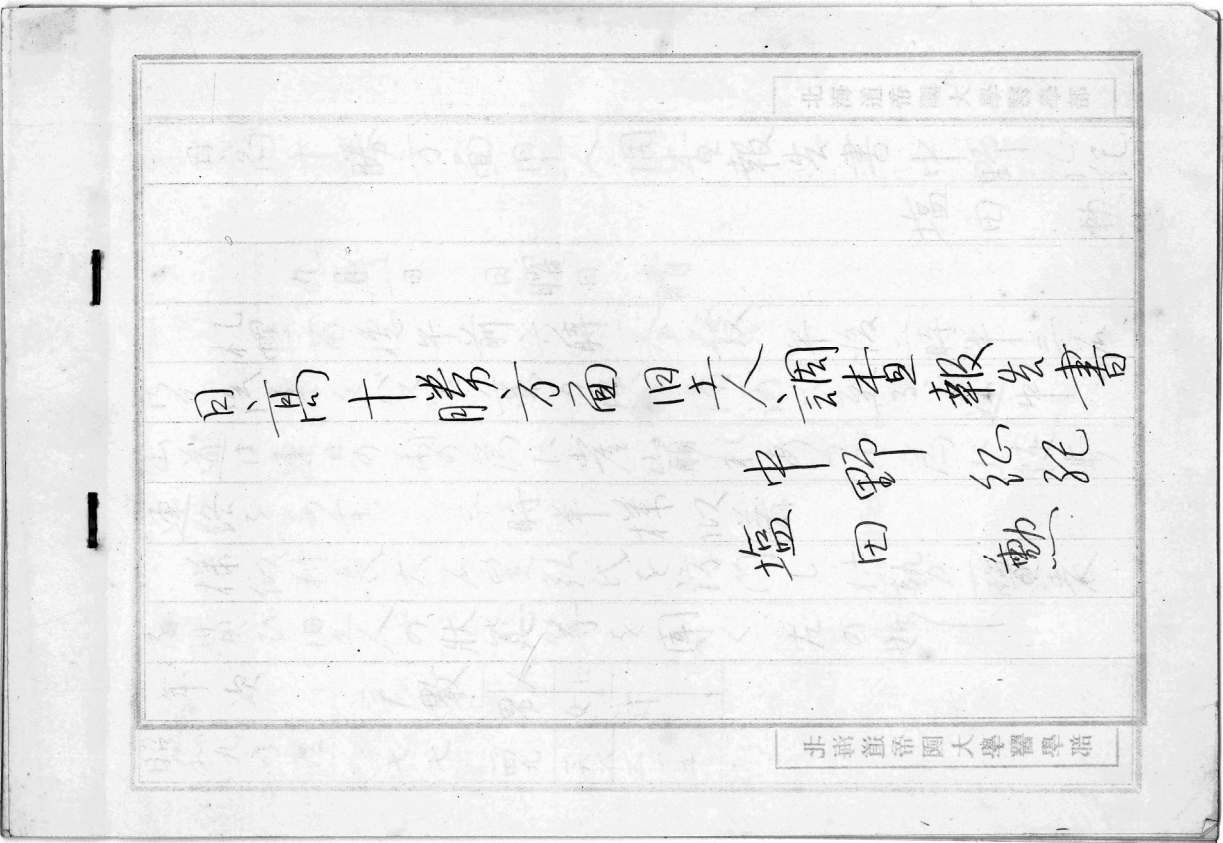
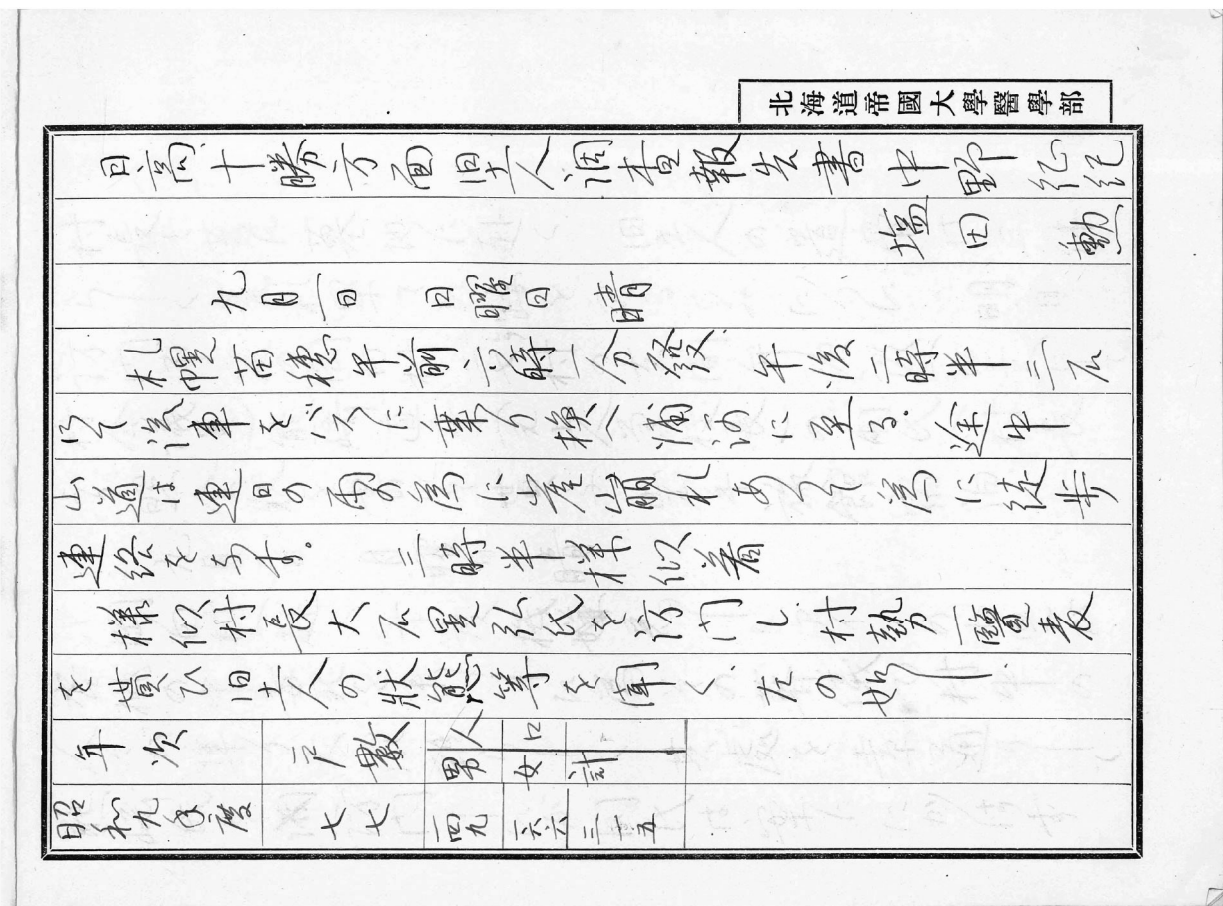
殿

様

4月16日
 田部

解剖 (山崎先生)	1,800	
精神 (内村)	1,800	
生体測定 (古屋)	1,800	4,000
診療班 (有馬)	1,800	2,500
病理 (今井)	1,500	
生理 (永井)	1,500	
衛生 (開上)	1,500	
内科 (有馬)	1,500	
眼科 (越智)	1,500	
皮膚科 (高橋)	1,500	
準備金	1,800	
計	16,500	

【資料3】中野征紀・塩田勲「日高十勝方面旧土人調査報告書」《北海道帝国大学医学部罫紙12枚・表紙1枚》



村長と共に墓地に赴く。旧主人の遺骨は三
 らしく荒れ果てた跡を及るのみなり。明日
 訪問予定の岡田村^ニ七村の^ニ [redacted] (旧主人に
 村会議員)能崎直平(元土人学校長)の兩氏(村長
 より照会状を書き世貫子 老年旅館宿泊。

九月二日 日曜日 晴

岡田村へ赴く。下度~~様~~真^馬しくアイノ十思が
 杏桃の中毒死を事し^ニ爲その葬儀に村中の
 人々が集り大混雑らしく其處を幸通りて
 能崎氏を訪問し^ニが岡氏は寧ろたかはず

葬儀に到りてみる。面会出来ぬので此所の
 雜貨屋の老人に現在の墓地や往きの墓地の
 様子を聞き老人に案内して世貫子。往きの墓
 地といふ所は現在は國有地と云う居り。アイノ
 特有の東西に亘る凹地を十路に面し^ニ祈り付て
 り十五ヶ不確實の凹地五ヶ發見出車に。
 帰途能崎氏面会出来ぬが醉の爲要果領を
 得らから。能崎氏の話によれば様似川口の丘
 に往き墓地のある由で其處も調査し^ニが未詳
 である。それより幌鼻に至り亀屋旅館に一泊

九月三日 火曜日 晴

朝の散歩に四捨手前に幌泉へ事と云ふ
老人に秋岸内には後手アイノの庵で居ると
聞く。幌泉村長松浦作藏氏を役場に訪
問する。同村登記所附近は古墳であると言
う。秋岸内の様子等も聞けば村長は同地を
案内して下る。同地の [redacted] 氏をも照
会する。

秋岸内に [redacted] 氏を訪げば海邊に「顔」に
笑を堪へて「さうか、それならあつたが十俵の頃
烟を起す時に「ヤリコニ」云々の音があつた
と。ああ、南風吹くと思ふ竹アゴばや

木のおこきさうして遊んどりや」との話。
余等は是れで同氏の言ふ其の地を案内して
貰ふ。一ヶ所は同村 [redacted] 氏所有の土地
で櫛が植はる。確實に凹地十四ヶ所發見。
他の一ヶ所は [redacted] 氏所有の地で凹地四ヶ
所發見。そこは年杖ひを破き目標として
置ん。土壤は鹼性らしく三四拾分位を經過
しらう。 [redacted]
それから徒歩で力越へ向けへ出發し。
歌登路に [redacted] 氏家訪問。同氏宅に
使用人の同土人を土葬とある由を聞く

燈別、木之口、油島等、瓦桶家(有)名
支部を經十越の駅(越)へ泊。

九月四日 水曜日 晴

十越村の [] (旧共一氏) 訪内、十越より
工天押へ行く途中の北に往きの墓地がある
と南氏が調査の結果は不確實である。
同く徒歩で櫻の在所(野)に向け出發
途中アイノ沢(村)を調査しに不詳
野の驛(越) [] 氏定に宿を取るこ
うに、夕食後同氏の話をよれば []
氏が行路病の旧共一([]) を世話して []

氏の墓地に埋葬しに由を承り同夜 [] 氏
は余等の室をわき訪ねると明朝
案内するにやて帰らる

九月五日 木曜日 晴

[] 氏の案内で [] の墓地へ出掛け、
[] は [] 月 [] 日死亡の由、
はらへて産屋へ向けに出發、途中(産)留
りて [] 老人([]) を訪ね様子を
南氏が産留りは旧共一が長年([]) である
る。 [] 方に泊る

九月六日 金曜日 霧時々晴

廣尾村長少島肇吉氏訪門、佐野佐職
 丸山公麿の 氏等を照会し世帯
 上記諸氏を訪門しにが塔不在
 今等は丸山少丸山を調査しにが不明である
 同夜 氏訪門し停車場への国道より
 海側よりの一帯が古墳であると南にがもう
 人家と道路と畑にあらずんば不明である
 同夜も 氏定に宿泊

九月七日 土曜日 晴

午前九時十五分の第一廣尾の汽車で
 野塚に到る、村長照会の 氏を

訪門する、上野塚に墓地あるを聞き、区長
 氏へも照会しに上野塚に赴く
 同氏に土葬せる旧主人の骨格寄贈の運動を
 依頼する。豊似の後評郵便局長を訪ね
 が不在、 氏方に宿泊

九月八日 日曜日 晴

氏と共に後評郵便局長訪門
 同氏の墓地の北と南を知れる所を之に行き
 不確實なり

九月九日 月曜日 雨

終日雨天の爲、爲すことなく暮れる

九月十日 火曜日 雨

雨の中を歩掛け大樹に到る。村長中村
佐久彌氏不在。書記に様子を問く。[redacted]月の
末に死亡した俗稱 [redacted]の骨格を寄贈
し貫子様に相談しにが遺族が其の後判明
したの事である。尚 [redacted]の戸籍に因
しては次の様である。

本籍地 廣尾郡大樹村大字雁舟村 [redacted]

戸主 無職

所在地 右同上

死亡者氏名 並生 子 月 日

[redacted]

[redacted] 子 月 日 不詳

性 [redacted]

死亡時 [redacted] 子 月 日

埋葬 [redacted]

葬儀者 [redacted]

[redacted]に調査に行き、[redacted]が雨の為に遂に
断念して増尾に到る。[redacted]氏家に

宿泊

九月十日 水曜日 晴

[redacted]氏の照会が大津村尋常高等

【資料3】

北海道帝國大學醫學部

小学校校長 田村要一氏 訪内。同氏の案内で
 大津村役場を訪内、村長不在、主席の方
 に様子を聞く。
 十時を過ぎの有望な事を聞く。
 九月十二日 木曜日 晴
 午前七時半の汽車で帰。札幌の運に就く
 午後四時十七分札幌驛着。

【資料4】 山崎春雄「旭川市近文アイヌ部落ニ於ケル旧土人生体測定」
 《北海道帝國大學醫學部野紙3枚》

北海道帝國大學醫學部

旭川市近文アイヌ部落ニ於ケル旧土人生体測定
 毎頁 山崎春雄
 昭和十二年二月三日より十日に於て九日間、毎頁
 外岡四助教授 塩田中野兩助手。旭川市近文
 アイヌ部落内旧土人生体測定之高量採行
 り。各期ヲ控ニシテ、猶ヒ之ニ付テハ、概シテ、
 近文ニ於テハ、各期間、農閑月ニ出稼シ、人、
 解村セル時、期ヲ以テ、最モ調査、如都合ナルベキコトヲ考
 慮セルニ依
 部族氏ノ調査、概シテ、
 得ルニ及ニ、後十二回ニ亙リ近文ニ往來シ、
 又々出稼ニテ部

概有意、旭川市書局ト懇談シ、市長 [redacted]
ハ、任意ノ一環ヲ措キテ、朝重揚、準備ヲナリ
朝重ヲ十二俵ノ圓體形ニ左ノ如ク

總數百八十八例

内	男	成年	六十	}	八十二例
		兒童	二十二		
	女	成年	七十七	}	百一十例
		兒童	二十九		

空欄 〇七〇

因ニ近天環境ノ人ニハ男百三十七人 女百五十五人 總計
二百九十二人ニシテ其内 〇七〇 老幼若輩中ノ出稼人モ除
外スル時ハ今圓ノ調量ハ ~~...~~

〇七〇 近天環境ノ人ニハ男百三十七人 女百五十五人 總計

目次

調量事項 人類學的研究ニ於テハ 精密ナル測定ヲ
頭部ノ精密ナル測定之ニ並用シテ正
確ナル三寸至五寸ノ測定器ヲ各人ニ就テ
施行シ約六百枚ノ器ヲ存セリ 其ノ
目付ノ器外ニ ~~...~~ 工場ノ器ハ備
新製ノ二百七十枚運ニシテ ~~...~~ 回
米ノ距離ニ依テ器ヲ存セリ。

計測事項は以下整理中ニ屬ス。

右此ノ期間中今一ツ的測量ヲ行ハシテ之ニ際シテ同
種ノ測量ヲ実施スル意向ナリ。

【資料5-1】 見玉作左衛門旧蔵「昭和九年度三省堂ポケット日記」《手帳・見開き5頁》

七 月 (舊6月)		七 月 (舊6月)	
16 月 (舊5日戊子)	学校 帰宅	20 金 (舊9日壬辰) 土用入	200. [redacted]
17 火 (舊6日己丑)		21 土 (舊10日癸巳)	
18 水 (舊7日庚寅)		22 日 (舊11日甲午)	[redacted] 不-
19 木 (舊8日辛卯)			

七 月 (舊6月)

23 月 (舊12日乙未) 大暑

夜 [redacted] 卯二
[redacted] 卯
[redacted] 卯
[redacted] 卯
[redacted] 卯
[redacted] 卯

24 火 (舊13日丙申)

礼 敬 初 八 日

25 水 (舊14日丁酉)

寺 教 授 長 官 長 官
~~寺 教 授 長 官 長 官~~
禮 堂 祭 祀 長 官

26 木 (舊15日戊戌) 滿月

~~寺 教 授 長 官 長 官~~
~~寺 教 授 長 官 長 官~~
寺 教 授 長 官 長 官
[redacted]
[redacted]

七 月 (舊6月)

27 金 (舊16日己亥)

伊 藤 夜 立 心
寺 教 授 長 官
寺 教 授 長 官

28 土 (舊17日庚子)

書 院 會 社 十 日
夕 伊 藤 歸 宅

29 日 (舊18日辛丑) 土用丑の日

午 酉 耳 鼻 科 症 語

七月·八月 (舊6月)

30 月 (舊19日壬寅)

今 壯

31 火 (舊20日癸卯)

山崎

1 水 (舊21日甲辰)

詔阿

2 木 (舊22日乙巳)

の電路

500. 暗合風

正字來

八月 (舊6月)

3 金 (舊23日丙午)

午位教授会 伝電

4 土 (舊24日丁未)

Rino Seiche 午位伝電

5 日 (舊25日戊申)

午位 伝電 王連工193

八月 (舊6月)

6	月 (舊26日己酉)	香里回哈人村
7	火 (舊27日庚戌)	雨 道广 有假保系 女 8/4
8	水 (舊28日辛亥)	立秋 木下 有假 金木 8/7 [Redacted]
9	木 (舊29日壬子)	木下 有假 金木 [Redacted] [Redacted] [Redacted] [Redacted] [Redacted]

八月 (舊7月)

10	金 (舊1日癸丑)	病院 有假 求下 Cougham. 夜女 友 785-888
11	土 (舊2日甲寅)	人重
12	日 (舊3日乙卯)	

八月 (舊7月)		八月・九月 (舊7月)	
13	月 (舊4日丙辰)	31	金 (舊22日甲戌)
<div style="background-color: black; width: 100px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> 北 → 南 243 → 4			
2 94.95 326-237.			
14	火 (舊5日丁巳)	1	土 (舊23日乙亥) 二百十日
(ト)			
15	水 (舊6日戊午)	2	日 (舊24日丙子)
16	木 (舊7日己未)		

【資料5-2】「第8小(アイヌ調査)委員会第2回会議記事」(1935年1月21日)は省略。【資料2-1】を参照。

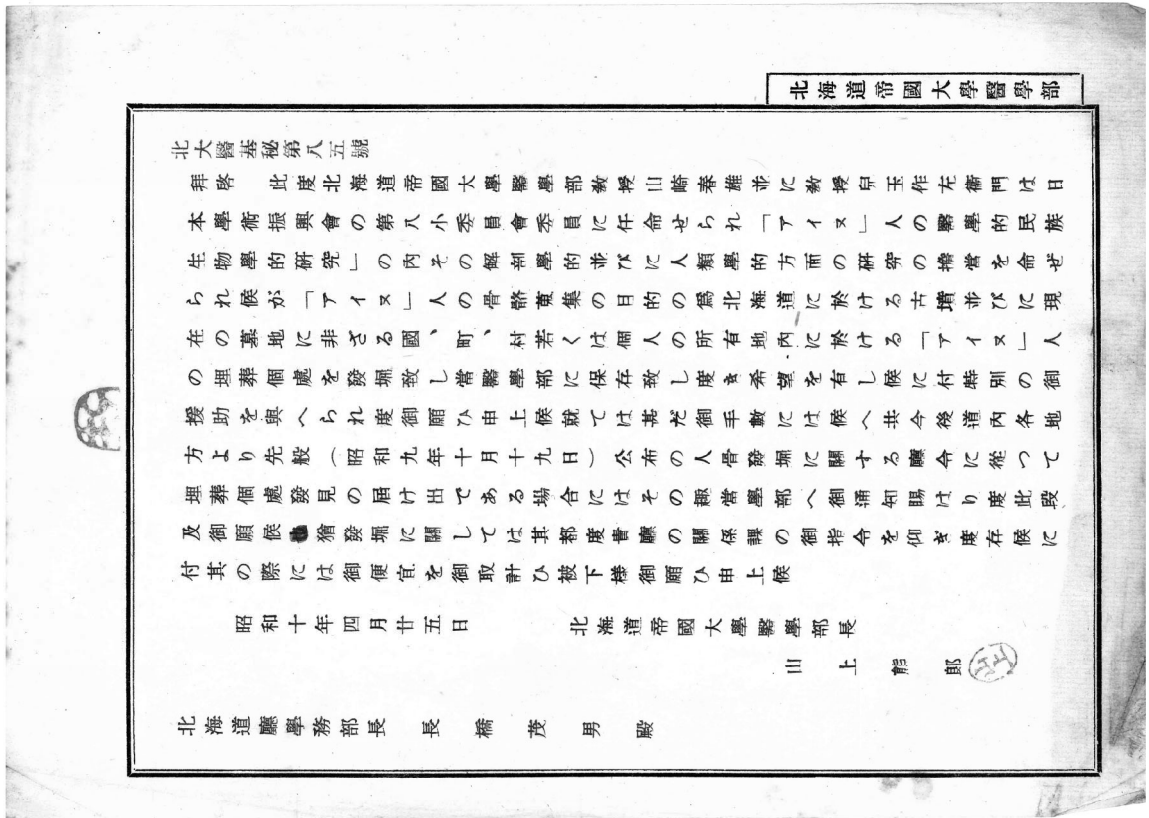
【資料5-3】 見玉作左衛門 「森町旧アイヌ墓地発掘経緯報告書案」 《【資料8-5】 の2枚目、北海道帝国大学罫紙1枚》

2

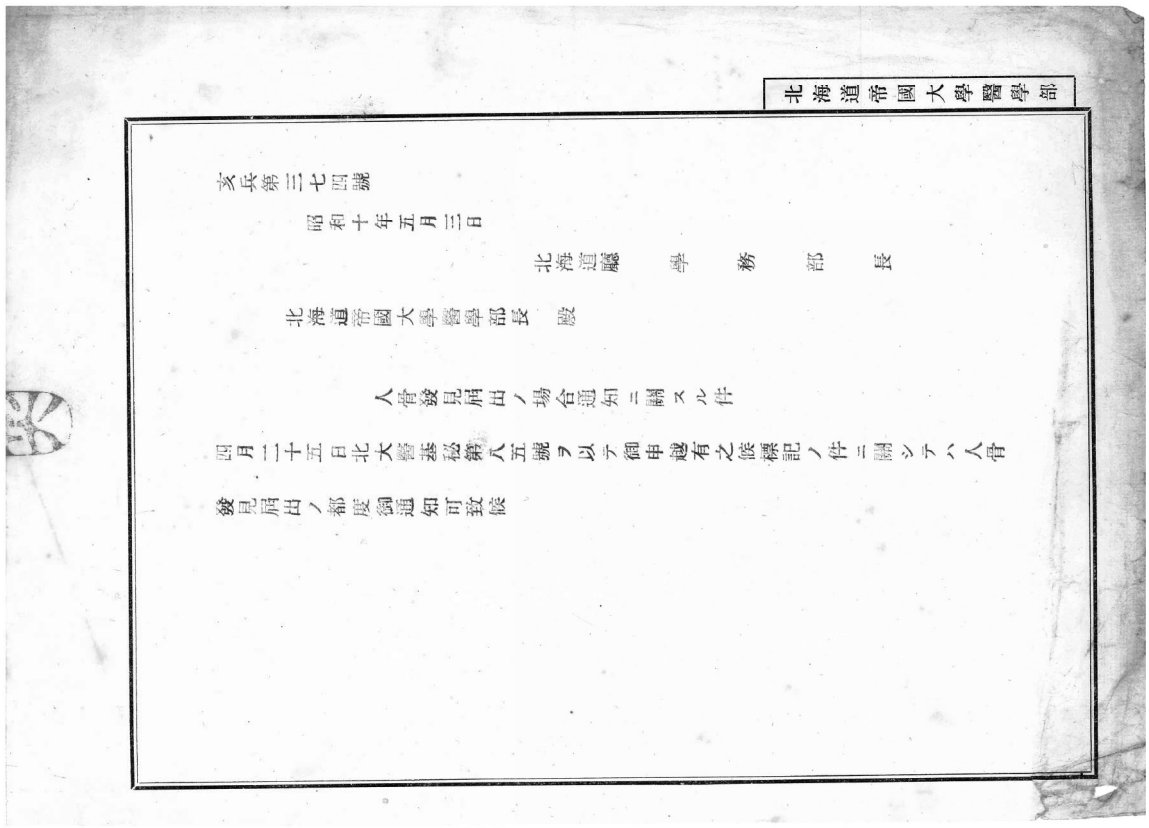
二ノト、ナリコトヲ。其後北海道廳ニ於テハ、伊達ノ墓ヲ増設
 スルニ付、本ノ墓、乃チ界ノ外國ニ墓リルニモ、カシトコノ墓コトハ
 屢々新設紙上ニ書カゲ、十月中旬、廳令ヲ出シテ、伊達城墓
 各墳墓並ニ、廳令ヲ出シ、シテ、之ヲ管理スル社事長等
 課長ニ、假令女子ト出ル之ヲ掘リ、モナシ、如何トシテ、喪事
 以テ、之ヲ所如トスルモ、是道廳ノ役人、異動シ、之ヲ十有
 二、社事長等、皆無ニ、子部部長ノ、更迭ノ見コトナリ、
 北海道帝國大學
 新設墓課長、此ノ墓が、
 況得ルニ、即却コトナリ、又、現在ノ墓道、
 及、墳墓ノ、ア、早、速ニ、
 土地、現、
 管理、
 之、
 之、

之、
之、
之、

【資料5-4】1935年4月25日付北海道庁学務部長宛て北海道帝国大学医学部長依頼文書「北大医基秘第八五号」《北海道帝国大学医学部用紙1枚》



【資料5-5】1935年5月3日付北海道帝国大学医学部長宛て北海道庁学務部長回答文書「人骨發見届出ノ場合通知ニ關スル件」(亥兵第三七四号) 《北海道帝国大学医学部用紙1枚》



【資料6-1】見玉作左衛門旧蔵「南江堂書店製カレンダー」(1934年5~7月)

《両面印刷カレンダー3面》

南江堂書店 東京都本郷區香木町三丁目 電話小田川三五〇・三九六九 振替口座東京一四九九		南江堂京都支店 京都市中京區寺町通御池町 電話上三〇三 振替口座大阪一一五〇五	
5	16	水	
1	17	木	
2	18	金	八雲八、伊藤柳生
3	19	土	見玉
4	20	日	久石雅也、帰宅
5	21	月	柳生帰宅
6	22	火	三年杉稷高
7	23	水	柳生立、柳生帰宅
8	24	木	見玉、帰宅
9	25	金	伊藤大塚、八雲八
10	26	土	"
11	27	日	"
12	28	月	見玉、八雲八
13	29	火	柳生大塚、帰宅
14	30	水	伊藤、伊藤、帰宅
15	31	木	見玉、八雲八、帰宅
TOKIO NANKODO		KIOTO	

南江堂書店 東京都本郷區香木町三丁目 電話小田川三五〇・三九六九 振替口座東京一四九九		南江堂京都支店 京都市中京區寺町通御池町 電話上三〇三 振替口座大阪一一五〇五	
6	16	土	
1	17	日	
2	18	月	
3	19	火	
4	20	水	八雲八
5	21	木	
6	22	金	
7	23	土	小山崎、伊藤、帰宅、帰宅、帰宅
8	24	日	晴、海、帰宅、帰宅、帰宅
9	25	月	晴
10	26	火	晴、柳生、帰宅、帰宅
11	27	水	柳生、帰宅、帰宅、帰宅
12	28	木	長部、帰宅、帰宅
13	29	金	
14	30	土	
15		日	
TOKIO NANKODO		KIOTO	

南江堂書店
 東京市本郷區善木町三丁目
 電話小川三五〇・三九六九
 振替口座東京一四九



南江堂京都支店
 京都市中京區寺町通御池南
 電話上二〇三五〇五
 振替口座大阪一一五〇五

7	Juli	1934	月	16	火	保松、收、柳澤
1	日	中R 祝祭、花筒、幕肥	火	17	水	
2	月	堀、	水	18	木	
3	火		木	19	金	
4	水		金	20	土	
5	木		土	21	日	
6	金	gym. operation.	日	22	月	
7	土		月	23	火	
8	日		火	24	水	
9	月		水	25	木	
10	火		木	26	金	
11	水	伊藤、松田、佐田、八雲、人	金	27	土	
12	木		土	28	日	
13	金		日	29	月	
14	土		月	30	火	
15	日	在八雲、出島	火	31		

TOKIO NANKODO KIOTO

土地發掘承諾書

持者儀
 山越郡八雲町字遊樂部濱ニ所有スル牧場
 内ニ於テ學術研究ノ爲メ土地發掘^{子開}ニ對シ
 承諾^{仕リ}候^物發掘品ハ全ク北海道帝國大學
 醫學部解剖學科^林ニ寄贈致ス可ク之ニ對シ
 何等報酬ハ申受ケテシク候

和儀

昭和九年 月 日


山越郡八雲町字遊樂部濱

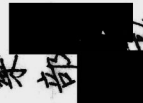
北海道帝國大學教授 兒玉作左衛門殿



【資料6-3】 1934年5月10日付八雲町長内田文三郎宛て兒玉作左衛門「土地發掘承諾願」
 ・ 1934年8月19日付兒玉作左衛門宛て八雲町長内田文三郎「承諾」《和紙1枚》


土地發掘承諾願



五字通 山越郡八雲町大字八雲村字遊樂部  内儀

所有地内ニ於テ學術研究、爲^ステ^ル御承
 諾相成度此段及御願候

一 土地發掘ニ関^スル件、
 一 發掘品ハ北海道帝國大學醫學部^ニ寄贈件、


北海道帝國大學教授
 兒玉作左衛門 

昭和九年五月十日

山越郡八雲町長内田文三郎殿

右承諾候也
 但し發掘^スル^ニ先^ニハ速ニ^テ原状ニ復^スセ
 ル^ニ事

昭和九年 月 日 誓

山越郡八雲町長内田文三郎 

【資料6-4】1934年7月26日付北海道庁警察部長藤岡長敏宛て児玉作左衛門「旧土人々骨及ヒ副埋葬品發掘届」《和紙1枚》

舊土人々骨及ヒ副埋葬品發掘届

私儀

昭和九年五月十八日ヨリ七月十六日ニ至ル間山越郡八雲町字遊樂部濱ニ於テ [REDACTED] 氏私有牧場内並ニ之ニ隣接セル所有地内ニ於テ舊土人遺跡研究ノ為試掘ノ際人骨百三十体及ヒ副埋葬品別紙通リ發掘致シ候間該地形略圖並ヒ副埋葬品目錄相添ヒ此段御届申候

昭和九年七月廿六日

北海道帝國大學教授 児玉作左衛門

北海道廳警察部長 藤岡長敏 殿

【資料6-5】1934年7〔8〕月26〔6〕日付出越郡八雲警察署長〔長官〕宛て見玉作左衛門「旧主人々々骨及亡副埋葬品〔埋藏物〕発掘届」及び別紙「副埋葬品目録」《和紙2枚》

越郡警察署長

とす

北海道帝國大學教授 見玉作左衛門

昭和九年八月六日

私儀
昭和九年五月十八日ヨリ七月十六日ニ至ル間山越郡八雲町宇遊樂部濱ニ於テ [redacted] 氏私有牧場内並ニ之ニ隣接セル所有地内ニ於テ舊土人遺跡研究ノ為試掘ノ際人骨百 [redacted] 体及亡副埋葬品別紙通リ發掘致シ候間該地形略圖並ニ副埋葬品目録相添〔此段御届申候

舊土人骨及亡副埋葬品發掘届

埋藏物

二

副埋葬品目錄

山越郡八雲町字遊樂部濱 [redacted] 氏私有牧場内

並ニ町有地内ニ於テ發掘スル副埋葬品左ノ如シ

1	刀劍	三十本
2	マキリ	六十五本
3	タシロ	三十一本
4	マシブ	四十二個
5	銚	二十二個
6	煙管	四十個
7	鉋	三十九本
8	鎌	五十七本
9	鋏	二個
10	玉(硝子石)	五百三十個
11	耳輪	四十二個
12	鍋	三十四個
12	燧石	六十五個
12	燧金	四十三個
13	塗器類破片	三十一個

以上

埋藏物発掘届

私儀

昭和九年五月十八日ヨリ七月十六日ニ至ル間山越郡
八雲町字遊樂部濱ニ於テ [REDACTED] 氏私有牧場
内並ニ之ニ隣接セル町有地内ニ於テ舊土人遺跡研究
ノ為テ試掘ノ際人骨百三式体及ヒ副埋葬品別紙通リ
發掘致シ候間該地形略圖並ニ發掘品目録相
添ヘ此段御届申候

昭和九年八月六日

北海道帝國大學教授 児玉作左衛門

北海道廳長官 佐上信一 殿

發掘品目錄

一 品質

人骨	百二十六体	(内男五十二体 女五十五体 小兒十三体 性不明六体 骨有草者六体 骨有木者六体)
刀劍	三十本	
コギリ	六十五本	
タシロ	三十一本	
アツア	四十二個	
鉛	二十二個	
煙管	四十個	
鉈	二十九本	
鎌	五十七本	
鋏	二個	
玉(硝子石)	五百三十個	
耳輪	四十二個	
鍋	三十四個	
燧石	六十五個	
燧金	四十三個	
塗器類破片	三十一個	

二 形狀

人骨ハ概テ仰臥伸位ニシテ灌木根並ニ雜草根蕃殖著ク從テ

種々程度に腐蝕せらる。頭骨は概して低く、前後に長く之に相當の額低く後方に傾く。縫合は比較的簡單ナリ。顔面は割合に平く、眼窠は一般に甚だ廣く。上肢は上膊骨比較的強大且つ扁平にして三角筋粗縷著しく突せり、前膊は尺骨の彎曲度強く、尺骨橈骨共に骨間櫛著明ナリ。下肢は大腿骨粗縷著しく突出せり。大体上三分一、邊に於て前後に扁平ナリ。下脚は腓骨扁平にして後著しく脛骨、左右に扁平にして從て前著しく鋭く且つ前方に向つて彎曲せり。刀劍類は鞘殆ど全に腐蝕し僅に痕跡を残存せる裝飾金具ヲ以て認る。刀身は長短種々差アリトモ何れも腐蝕甚し。マキリ、クビロ等も同様腐蝕せり。マフはハソ特異鉤狀ヲナセリ。鉤ハソ骨部ヲ保存せらる。煙管は銅製にして火皿特大にして金屬部は比較的

的ク保存タルモ中央部腐蝕して残存せり。鉈、鎌、鋏、鍋等腐蝕甚しとドモソノ形狀は何れも現今使用せらるルモノト殆ど同様ナリ。玉硝子製を多ク時ニ石製をモナリ、ソノ直徑大ナル約三種、小ナル約三種、モノニ至ル種々大サニシテ、球狀ニテ中央部ニ之ヲ貫ク一孔アリ。コノ孔ニ紐ヲ通し頸飾トナセルモノナリ。耳輪概して銅製を多ク、円形ニシテ、時ニハ玉ヲ附セルモノアリ。燧石及燧金は往時用ヒラレタルト同様ノ形狀をモノナリ。塗器類トシテハ膳椀ノモノ最モ多シ。之ハ現今一般ニ使用せらるルモノト殆ど同様ノ形ヲナシ、稍大ニシテ舊古人間ニテ所謂「イタシキ」ト稱せらるルモノナリ。尚以上ノモノノ形狀ヲ別紙寫眞トシテ添附セリ。

三、年月日

昭和九年五月十八日より同年七月十六日ニ至ル間

四、場所

山越郡八雲町字遊樂部濱 [redacted] 氏私有牧場外及び之ニ隣接セル町有地内

五、考察

前記場所、内別紙地形見取略圖第二圖、場所ニ於テソノ西方ヲ流ル「イタウシナイ川、岸崩壞、際、偶々人骨ヲシキモノ出テタリト、報ニヨリ、之、場所ヲ視察セルニ附近一帯、灌木ソノ他雜草繁茂セル荒地ニシテ、

平常藝工人ニヨリ藎芥集場トシテ使用セラレ居ル場所ナリ。此處ニ東西ニ長キ陷凹個所、ソノ長約一間幅約三尺、モノ十五個規則正シク並列セラレアルヲ發見セリ。因リテコノ陷凹個所ヲ試堀セルニ全テ砂地ニシテ、地下約一尺乃至三尺ニシテ草木根ト密ニ混ゼル人骨及ビソノ副埋葬品ヲ見出シタリ。ソノ際人骨ハ全テ頭部ヲ東方ニ足部ヲ西方ニ向ケタル仰臥伸位ニシテ、稀ニ伏臥位又ハ屈位ノモノアリ。ソノ副埋葬品ハ左或ハ右側、又ハ体上部ニ散在セラレタリ。男ニテハ刀劍、マキリ、タシロ、マレフ、銚、奇、世ニテハ、鏃、鍋、玉、寺、テリ、煙管、耳輪、燧石、燧金、塗器類ハ男女何レニモ發見セラレタリ。次イテ、コノ場所ノ南方ニアル放牧地（地形見取略圖第三圖）内ヲ檢セルニコノ場所ハ數年以前畑トシテ耕作中、人骨ヲシキモ屢々出テタル所ニシテ、ソノ附近ハ牛馬ヲ放牧シ居ル場所ナリ。

地表ニ何等陥凹ヲ認メザリシモ處々試堀セルニ此處於テモ
前記個所同様ニ六十三個ノ埋葬個所ヲ發見シ人骨及其、
副埋葬品ヲ地下約一尺乃至三尺ノ所ニ見出セリ。コノ場所
ハ既ニ耕作セラレタル等ノ事情ニヨリ、埋藏物ハ概シテ混亂セ
ラレタルモノ多シ。

右ニ記セル[]氏私有地ヨリ北方ニテ、之ト道路ヲ以テ境セ
ラレタル町有地内ニ現火葬場、東方ニアル小高キ丘(地形見取
略圖第四圖及第五圖)ニ於テ、前ニ發見セルト同様ナル東西ニ
長キ陥凹個所ヲ五十個發見セリ。此場所ハ丈約四尺、灌
木及ビ笹ノ他雜草、繁茂セル所ニシテ、平常何等使用
セズニテ放置セラレ居リ。因リテ、此場所ノ灌木、笹等ヲ

刈リ拂ヒ、然後試堀セルニ前記二個所ト同様ニ地下約
一尺乃至三尺ノ深サニ、人骨及ビ副埋葬品ヲ見出セリ。

以上ノ發堀セル前記人骨及ビ副埋葬品、腐蝕程度等
ヨリ考フルニ、之等ハ少クモ百年以上ヲ經過セルモノニシテ、大體
百年乃至百五十年程以前ノ舊土人ノ遺跡タリシコトヲ推定
セリ。

埋藏物発掘届

私儀

昭和九年五月十八日より七月十六日に至る間山越郡
八雲町字遊樂部濱に於て [redacted] 氏私有牧場
内並に之に隣接セル町有地内に於て舊土人遺跡研究
ノ爲試掘ノ際人骨百二十六体及ヒ副埋葬品別紙ノ通り
發掘致シ候間該地形略圖並に發掘品目録相
添へ此段御届申候

昭和九年八月日

北海道帝國大學教授 見玉作左衛門

北海道廳長官 佐上信一殿